

日本工学会科学技術人材育成コンソーシアム
2025年度第2回コンソーシアム会議 議事録

日 時： 2025年8月21(木) 13:00~13:50

場 所： Zoom ミーティング

出席者：(敬称略) 出席者下線

代 表：廣瀬壯一 (部会2) 副代表：山本誠 (部会3)

幹 事：白旗弘実 (部会1), 湯地敏史 (部会2), 伊藤宏幸, 宮川和芳, 高橋桂子

委 員：結城義敬, 久保田寿夫, 田中皓介, 高橋章浩, 岩附信行,

中澤浩介, 三田清文, 新宮清志, 細澤治, 吹春寛, 後藤まどか, 井上裕嗣

オブザーバ：對崎真楠, 今井悠一郎, 大儀健一, 加藤修

協力員：山口愛

維持員：石田好輝, 最上公彦, 森田勉

顧 問：有信睦弘, 松瀬貢規, 岸本喜久雄

事務局：竹内章晃

議 題： (順不同)

1. 話題提供 土木学会 田中皓介 委員 「土木と学校教育フォーラム」
2. 2025年度第1回(4/30)コンソーシアム会議議事録確認
3. 各部会報告
4. 今後の活動について
5. その他

配布資料：

0-1： 2025年度第2回科学技術人材育成コンソーシアム会議 議題表

0-2： 2025年度科学技術人材育成コンソーシアム役員・委員名簿

1： 2025年度第1回コンソーシアム会議 (2025/4/30) 議事録 (案)

議 事：

1. 土木学会「土木と学校教育フォーラム」について

「土木と学校教育フォーラム」を2009年ころに始めて今年は17回目である。児童・生徒のシティズンシップ教育に資することをねらいとして全国の土木と学校教育の双方の専門家と実践者により、研究発表や事例紹介を行ってきた。公共心、街を考えるきっかけを作っているが、今年は埼玉の下水管劣化による道路陥没事故の話が出た。

土木の分野は防災とも関連して理科科目と関連が深い。地震、津波の避難や豪雨による河川氾濫、土砂崩れについて考えてもらっている。

最近ではSDGsやDI(Diversity and Inclusion)関連の内容が増えている。歴史や公民といった社会科目との関連も多くなっている。

1998年より、小中学校では「総合」科目や高校では「探求」という科目ができて、フォーラム(小委)が支援を行っている。(i) 生徒からの質問に答えるために情報を調べる時間がない。

(ii) 小中高の先生が指導できない。(iii)大学の研究室などに問い合わせるネットワークがな

い。(iv)生徒からの質問に答える方法がわからない。専門知識がない、といったことに課題を感じる。北海道開発局の方からはかなり協力をいただいている。

他の分野にもあるとは思いますが、土木工学分野は社会との接点が多いので、小学校などの科目にコラボしていきやすい。

C 学校教育現場まで踏み込んでの活動に驚くとともに敬意を感じた。土木が civil という面もあるだろうが、学会としてそこまで踏み込もうという意識のもとに始めたのだろうか。

A つながりが大きかったのは防災教育だったと思う。子供たちをどうにかしたい、という意識はあった。

土木は公共事業であるが、政治要素がからむことが多い。開発などで市民から批判を受けやすいということに対して、土木学会でも問題意識があったと思う。子供たちにも理解をすすめてもらおうという意識はあったのではないか。

Q 北海道に熱心に参加してくれる人がいるとのことだが、他にも理由があるのかと思うが、なぜここまで継続しているのか、秘訣があるのであれば教えていただきたい。

A 他の地域でそのような事例がなくなっているようであり、北海道が残ったという面はあるが、具体的な理由はよくわからない。

Q 副読本活用、発行の経緯、など教えてほしい。副読本の配布先はどのようになっているのか。

A 委員長が京都大の藤井先生である。震災のあとに内閣参謀として、内閣府の防災関連部署から副読本が出ている。副読本はインターネットで公開している。希望があるところには印刷して届けている。

C 小中高の学校が神奈川県には 150 校あり、ボランティア講師に行ってもらっており、実験教室をしてもらっている。地域に根差した内容が望まれているが、学校現場に入り込むのが難しい。小中学校の先生も疲弊しているようである。専門的なことをプロに教えてもらいたい。ルートづくりが重要であると感じた。

C 本コンソーシアムも初等教育の現場にどうすれば入れるのか検討することから取り組みが始まった。

2. コンソーシアム議事録確認

前回の議事録案を承認した。

3. 各部会報告

各部会から活動報告があった。

第一部会：これまで同様の活動を行っている。

第二部会：主査が欠席なので、あとで確認して報告することとするが、例年どおりの活動である。

第三部会：9月の理事会で来年3月の世界エンジニアリングデーの話が出ると思うので、そこから本格的な取り組みが始まると思う。

予定では、3月4日の開催で、対面で行う。午前中に日本工学会で、大学の学修の目標をどう考えていくかという話を企画中である。コンソーシアムメンバーにエンジニアリングデーに出ていただく可能性もあるので、認識しておいていただきたい。

4. 今後の活動について

次回、話題提供頂く候補を選定して年末までに開催を予定している。

以上